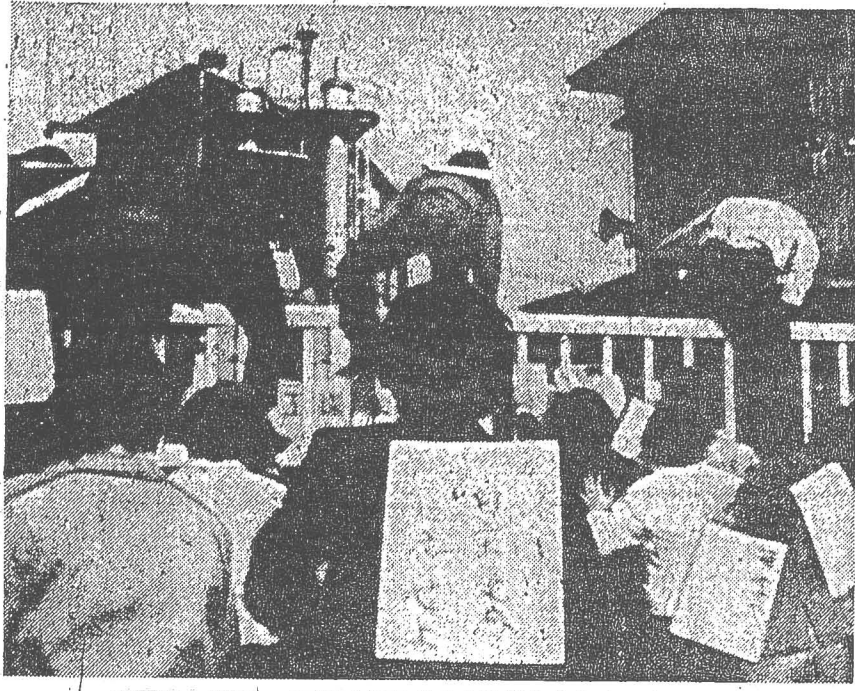


# チッソ工場へ乱入

## 水を病を 告発する会

# “自主交渉”を要求

## 60人、事務所前に坐込む



二十廿日朝、熊本・水俣病を告発する会(本田清吉代表)の会員約六十人が、水俣市のチッソ水俣工場内へなだれ込み「チッソは新原形毒の要求を受け入れて自主交渉に応じよ」と要求、事務所前にすり込んだ。

正門をよじ登って工場内に入る「水俣病を告発する会」の会員

この行動は十月六日熊本、鹿児島県から新しく水俣病と認定された十八人が、チッソ水俣工場に對して十一、二十両日、補償要求したのに対して、チッソ側が問題を中央公害審査委員会にかけたとい、自主交渉を拒否したのに抗議したもので、告発する会は「公害審査会に持ち出すとは、さき

の「一任派の厚生省補償処理委と同じように、不当に低い補償を庶民たちに押し付けることになる」と反発していた。同日午前十時前、水俣駅前に乗まった本田清吉代表ら約六十人の会員は、そのまま工場に押しかけ、同じ分、正門などを乗り越え、なだれを打つように工場内に入った。県警ではあらかじめこの抗議行動を察知、混乱に備

保警に待機させていたが、工場前には派遣しなかつたため、告発する会員たちはほとと抵抗なく工場内に入った。

工場に入った会員たちは、事務所前で「水俣病の補償を国家権力に任せるのはインチキだ。直ちに患者との直接交渉に応じよ」と叫びながらすり込み、佐々木三郎

チッソ水俣支社長、山根勇一工場長らに面会を要求している。これに対し、工場側は非常サイレンを鳴らし、新原を中心に従業員ら三百人を工場内の要所に配置するとともに、退去を呼びかけらみ合った。

会社側は「午前十一時十分までに退去するよう」退去命令を出し

たが応じないため、同十一時半従業員が一人ずつ門外に押し出す実力排除に入ったが、二人を排除したにとどまった。また会員の一人が工場屋根に登ったため、会社側が引きずりおろし、水俣署へ送した。